

エリア

AREA

2009. 3. 16

No. 49

平成 20 年度 国土交通省地域振興アドバイザー派遣・終了報告

平成 20 年度のアドバイザー派遣が終了しました。この 1 年間の取り組みをきっかけとして、新たな地域振興へ踏み出していきたいと思います。

今回のニューズレター「エリア」では、受け入れ地域の方々に、1 年間の派遣を振り返りレポートしていただきました。内容は、派遣テーマと 1 年間の概要、派遣の成果、感想、反省点など、来年度に向けた予定や希望の 3 点です。

岩手県 / 西和賀町

政策推進室 畠山 幸雄

1. 派遣テーマと 1 年間の概要

西和賀町では 4 つの第三セクターがあり、日帰り温泉施設などの管理運営や乳製品の製造販売等を行っていますが、いずれも経営的に厳しい状況にあります。この見直しを図るためにはどうすればいいのか、というのが今回の派遣テーマでした。

第 1 回の派遣では、西和賀産業公社が指定管理者として管理する温泉施設や、湯田牛乳公社の工場、直売所などの施設見学を行うなど、地域の現状をかなり詳細にチェックしていただきました。また、民間資本である沢内銀河高原を訪問し、連携の可能性などについて意見交換を行っています。



公社運営の砂風呂の経営診断をするアドバイザー

第 2 回では、町長・副町長、第三セクターの現場責任者、議会議員それぞれとの意見交換を行い、各社の現状把握と改善すべき点を洗い出しました。

第 3 回では、町民にも参加を呼びかけてシンポジウ

ムを開催し、アドバイザーそれぞれの視点から町づくりと第三セクター再建の提言をしていただきました。

2. 派遣の成果、感想、反省点など

第三セクターの見直しの必要性は合併時の課題でもあり、町としても検討を行っていましたが、第三セクター、町、議会、住民を巻き込んでアドバイザーとの話し合いをしていただいたことにより、見直しに取り組むことの重要性を町全体として共通認識できたと感じています。

先生方から共通して言われたのは、やらなければならないのは第三セクターの再建ではなくて住民がどう取り組むかであり、地域の人づくり、地域づくりに役立つための第三セクターをつくることである、ということでした。そのためには、中途半端な改革ではなく、公と民の長所を生かすという第三セクターの存在意義を踏まえながら、統廃合による一体化など思い切った見直しが必要との提言を受けています。

また、町では平成 20 年度から県との共同事業として「西和賀元気な産業再生事業」を進めており、第三セクターの見直しもこの事業の大きなポイントになっていましたが、第 2 回の派遣から両事業の関係者が意見交換を行いながらうまく連動できたことにより、双方の基本的な考え方を整理する上で大いに役立ちました。

3. 来年度に向けた予定や希望

平成 19 年度から進めてきた第三セクターの見直しに向けた検討は、21 年度に具体化を進めていく予定です。また、「西和賀元気な産業再生事業」も、21 年度が本格的な取り組みとなります。先生方からいただいた多くのアドバイスを生かしながら、地域のため、住民のために活躍できる第三セクターを町全体で築いていけたらと思いますし、今後も先生方から様々なご支援をお願いしたいと考えています。

1. 派遣テーマと1年間の概要

御用邸をかかえるロイヤルリゾート那須の、花咲き乱れる春が過ぎ、避暑地としての夏を経て、日光国立公園に属する見事なまでの紅葉の秋を迎え、第1回目のアドバイザー事業が開始された。

まずは湯本温泉街の現地視察を行った。観光協会を起点に、歴史ある温泉神社、九尾の狐伝説の「殺生石」、1,400年近い歴史を誇る「鹿の湯」、そして石畳の民宿通りを周遊し現状を確認した。

第2回目についても、再度現地を周遊し、それらについて討議した。第3回目は、やりたいことの一覧を短期、中期、長期に分けた表を作成し説明した。なお地図も現況、問題点、計画マップの3種類を提示し討議した。



皆でまち歩き

2. 派遣の成果、感想、反省点など

町づくりや地域活性化は難しい課題である。しかしそれは、夢のある話題にも変わる。

時には酒を交わしながら、地元の男たちが町の将来の夢を語り合った。(男たち?)アドバイザーの方から聞かれた。「この会に女性はいないのですか?」……忘れていた。町づくりに女性の意見は大変重要であるとのこと。今回の最大の反省点である。

歩いて楽しい那須湯本温泉街をサブテーマに、2回に渡り現地視察を行った。それによりこれまで気付かなかったものが見えてきた。

雄大な自然景観、温泉の歴史、伝説、地域資源は数多くあった。それとは逆に、危険箇所、景観を損ねる看板、廃屋、空き店舗なども目立った。これらを現況マップ、問題点マップに分けることにより、誇れるもの、修正すべきものが再認識できた。

今回アドバイザーの方から指摘を受けたのは、自分たちの住む町をどの様子に守り、どの様に将来に伝えていきたいのか。基本的な部分を、どれだけ多くの地元の方と議論を交わしたのか。そう問われた。これまで何度か活性化に関する話し合いは行われたが、目に見える動

きはなかった。忘れていた大切な部分をつかれた。

また、第3者から見る客観的な意見は、逆にとても良い刺激となった。景観の見せ方、お客様が温泉街に求めるものへの理解、計画の立て方など、細かくアドバイスをいただいたことを、今後に活かしていきたいと思う。

3. 来年度に向けた予定や希望

最終回にてご指導をいただいた、やりたいこと一覧(短期、中期、長期)のマトリックスを作成すること。そして、歩いて楽しめる温泉街のための周遊マップの作成に取りかかること。この2点については、来年度と言わず早期に着手する予定である。来年度は、観光協会や旅館組合、女性を含め議論を深めていく。また、面的な活用推進のため、周遊コースの中間点にある遊休地の活用についても、今後継続して検討していく。

最後に今回の事業を通し、地元では小さな行動を継続させ、活性化への道を歩み始めるであろう。

1. 食を使って町を元気にしよう!

「地元農畜産物を活用した特産品開発と販売」をテーマに、アドバイザーの派遣を受け入れました。合併して3年、新しい町で、住民と町が一緒に汗を流しながら、「食を使って町を元気にしよう!」という新しいスタートを切りました。

特産品振興のために、アドバイザーから2つの方向性から助言を受けました。一つ目は特産品(地元農畜産物を活用した加工品)そのものをレベルアップするための生産者へのアドバイス、二つ目は特産品を振興する環境づくりのための町等へのアドバイスでした。

特産品生産者は、一般的なアドバイスの他、自ら生産する特産品を持ち寄り、アドバイザーに試食していただいた上で、具体的な改善点などの助言を受けました。特産品生産者の中で、1年間に5日間も、アドバ



特産品(加工品)を持参し、アドバイザーから具体的助言を受ける特産品生産者

イザーから助言を受けた方もいました。

町は3回の派遣時はもちろんのこと、それ以外でもメール等を活用しながら、アドバイザーから助言を受け、食資源を活用した地域づくりを進めました。

2. りんごスイーツで町を売り出す!!

3回のアドバイザーからのお話で、地域には多くの資源が眠っているということ、一方で、売れる加工品を作るということは非常に難しいということを感じました。

特産品生産者の中には、特産品の改善に向けて、具体的に動き始めた方、町内の飲食店などに売り込みをかけ始めた方など、新しい動きが見えるようになっていて、町事務局としても嬉しく感じています。

その他、アドバイザーの助言を基本に「五感で楽しむりんご色の日／飯綱町りんごスイーツフェア」を平成20年度、初めて開催しました。このイベントの企画は年度当初にはまったくなく、アドバイザーに何度も企画書を送付し修正を加えながら企画を練り上げました。りんごスイーツの販売、りんごのクッキング教室、りんごをテーマにしたジャズコンサートや美術展、りんご狩りツアーなど、町特産のりんごにトコトンこだわった1カ月間のイベントは大成功に終わりました。



りんごにトコトンこだわったイベント「りんごスイーツフェア」の一コマ。新聞、テレビ、タウン誌など、マスコミ大注目のイベントになった。

3. 将来の目標を明らかにする

「町の特産品振興の年毎の計画はわかるが、将来、どういう姿を目標にしたいのか明らかになっていない。10年、20年のスパンで計画を作り、一つずつ積み上げていくことが必要」と、アドバイザーから助言を受けました。

来年度、特産品振興のための具体的な予算化はしていますが、もっと長期的な目で見た振興策を、住民とともに考えていく予定です。

最後に、今年の4月末から5月末まで、これまた新企画食イベント「おやきルネッサンス／飯綱町春のおやきフェア」を飯綱町で開催しますので、みなさんのお越しをお待ちしています(^o^)/

岐阜県 / 本巣市

産業建設部商工観光課 川邊 知加

1. 派遣テーマと1年間の概要

当市は、岐阜県の南西部に位置し、南北の長さは43kmと非常に長い地形となっております。南部では大規模店舗の進出もめざましく、工業団地も数多くあり、商工業の盛んな地域です。

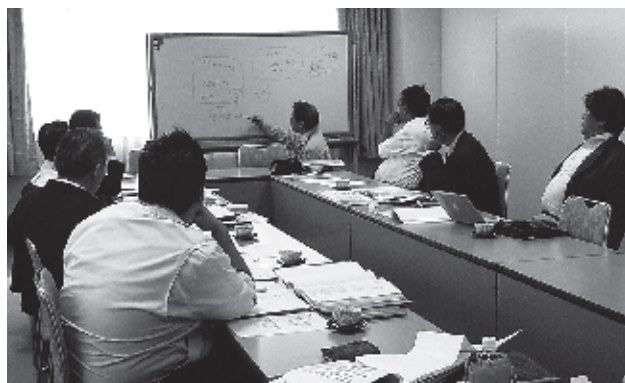
しかしながら、「うすずみ温泉」が位置する北部の根尾地域では、過疎化が深刻な問題となっており、観光交流人口の増加を図るため合併以前から観光施設の建設に努めてきた地域であるとともに、当市の観光拠点ともいべき地域であります。

近年、この観光施設の中でも「うすずみ温泉」は類似施設が近隣に立ち並び経営的に非常に苦しい状況となっており、この打開策をなんとか模索できないものかとアドバイザー派遣制度を活用させていただきました。

今回の事業では、収益の改善、人材育成、組織改善をめざし、アドバイザーのみなさんに問題点などを明確にさせていただき、今後の取組について提言やアドバイスをいただきました。

第1回目には、施設や周辺の現状を調査、説明した上で、問題点を明確にし、整理をしていただきました。問題点を整理した結果、特に構造的黒字対策への転換のため、長期経営改善計画を立てることを提言していただきました。

第2回目は、黒字体質にするための魅力作りを進めるためのプランについて、アドバイザーの3人の先生に厳しいご意見をいただきました。その後、どうしたら集客できるか、魅力あるプラン作りができるか、意見交換も実施していただきました。



会議風景

第3回目は、第1回目に提言していただいた、長期計画を策定しましたので「うすずみ温泉四季彩館 施設運営・経営収支3年計画」についてアドバイザーの先生方お1人、お1人にご意見をいただきました。

2. 派遣の成果、感想、反省点など

3人のアドバイザーの先生方から言っていたことは、3年計画がしっかり策定され、今後経営の改善がとても期待できる施設であるとのことでした。

ただし、計画にズレが生じることはやむを得ないことであり、このズレをどう修正していくかがとても大切なことだということをアドバイスしていただきました。

アドバイザー派遣制度を利用したこの会議を3回設けたことにより、この事業のテーマであった、職員の人材育成や組織改善にもつながったようです。アドバイザーの先生方から何かを吸収しようという気持ちと3年計画を策定しなければいけないという気持ちが一つになり、今まで以上の能力が発揮できたようです。

3年計画を進めていく上で、「満喫プラン（利用者へ提供する体験メニュー）」など、より細かな計画とする。サービス向上をどう進めるかメニューを作る。

ホスピタリティー向上のため職員を研修に参加させる。人件費の削減は数値目標を立てる。計画のズレをどう修正するかを考えていく。計画を実現するという意識を持ち、常にこの計画を職員が意識し合う」など、細かなアドバイスをいただきました。

3. 来年度に向けた予定や希望

うすずみ温泉では毎月運営会議を行っておりますが、この会議の中でも今年度アドバイスを受けたことを速やかに実行し、継続していきたいと考えております。何よりも先生方が最後におっしゃった「この財団は改善が十分に期待できる」というお言葉を励みに、3年計画を着実に実行し経営改善など施設の活性化に努めていきたいと思っております。

今後、賑わいを取り戻し、経営改善が行われたこの施設に再び先生方においでいただけることを楽しみにしております。最後になりましたが、大川先生、古賀先生、遠藤先生、本当にありがとうございました。

愛知県 / 西尾市

西尾市観光協会 奥谷 陽一郎

1. 派遣テーマと1年間の概要

西尾市は、温暖な気候、風土に恵まれており、産業と歴史文化の観光資源が豊富にあるにも関わらず活かしきれていませんでした。そこで観光資源を十分に活用した事業を展開するため、観光協会組織の強化（公益法人化）を図っていききたいと考え、地域振興アドバイザーの派遣をお願いすることにしました。

第1回目の派遣では、主に西尾市の自然、町並み、寺院、日本でも有数な生産地でもある、バラ、お抹茶の見学などの現在の西尾市の歴史と産業について視察を行い、町並みの保存状況について、お抹茶文化の活

かし方などについての貴重な意見をいただきました。

第2回目は、広域観光の観点から、隣接の幡豆郡一色町の産業観光（うなぎ、えびせんべい、海鮮類）の視察を行い、地域資源としての産業観光のあり方や今後の西尾市観光協会の位置づけ、目標を設定し、官民が同じ考えで進んでいかなければならない、しっかりとした基盤を作らなければいけないなどの意見をいただきました。



近隣のうなぎ養殖場でのアドバイス

第3回目の派遣では、第1、2回のまとめとして、アドバイザーと西尾市観光協会公益法人化検討委員会と協議する場を設け、今後の西尾市観光協会のあり方など話し合い、非常に中身の濃い内容となりました。

「漠然と公益法人化を目指しているのではなくしっかりと計画を作ること」「広域で観光協会の会議を行う」「西尾市にしかない産業観光を大いに活用してほしい」「民でまちづくりをさせる」などの発言や助言をいただきました。

2. 派遣の成果、感想、反省点など

当初、方向性が見えておらず、地域振興アドバイザーの方々に質問を受けても西尾市で意見がまったく食い違ってしまうという事が多々ありました。しかしアドバイザーの的確な助言により課題が絞られ、方向性が明確になっていきました。様々な貴重な意見をいただき、市民の中の温度差を少しでも減らし、官民が協力しあっていき時間をかけて、全国に西尾市の素晴らしさを感じていただけたらと考えております。

3. 来年度に向けた予定や希望

アドバイザーから「人間でも面白い人がいたらそれは地域資源だ」との言葉が印象に残っており、常に地域資源の発掘をし、名物となるガイドの育成に力を入れてまいります。そして「おもてなしの心」の精神で人と人との繋がりに感動することを活動目標とします。

また、地域に埋もれた産業観光の発掘と推進をアドバイザーしていただきましたので、産業観光の開発を積極的に検討してまいります。特に、本年2月に「西尾の抹茶」が地域ブランドとして認定されましたので、これを機に「西尾の抹茶」のPRと販路開拓などを積

極的に取り組んでまいります。

最後に、このたびの地域振興アドバイザー派遣の先生方には、感謝を申し上げますとともに、得た知識や貴重なご意見は、私たちの財産でありますので、今後はこれを活かし、西尾市観光協会をさらに発展させ、西尾市の観光とまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

兵庫県 / 加西市

経営戦略室 藤川 貴博

1. 派遣テーマと1年間の概要

兵庫県加西市北条地区は、中心市街地の中にあるまちなか居住の空間です。かつて、西国街道の宿場町として栄え、加西市の顔であった北条の街ですが、現在は、商店街も活力を失い、居住者の高齢者率の高い地域となっています。そんな北条の街に、再度賑わいを取り戻し、また、街にとって相応しい賑わいの空間となるために、どのように施策を進めるべきかが、アドバイザー事業の大きなテーマでした。

アドバイザー受入組織は、北条地区での防災や街並保全、観光PR、また、それらをテーマにした子どもたちへの総合学習を行う『北条まちづくり協議会』というまちづくり活動グループです。北条まちづくり協議会は、北条地区自治会13町（1,990戸、4,800人）から、協議会委員25人が選出され、組織されています。平成8年に設立され、平成14年から現在の形での活動が継続的に行われ、十分な成果によって、街の人たちにも認知される団体となりました。しかしながら、今後、活動を続けていくには、更なる広がりを持った活動が必要との認識から、協議会としては、どのような組織体制がよいのか等のステップアップのためのアドバイスを希望されました。

アドバイザー事業では、9月・11月・2月の3回に渡り、伊藤光造氏、木原勝彬氏、高木敦子氏の3名のアドバイザーを派遣していただきました。伊藤アドバイザーがファシリテーター役を務め、協議会の皆さんと



ワークショップ風景

現在の状況や今後進むべき方向性などの意見交換を進め、また、木原アドバイザーからは、北条のまちの大きな目標事例として奈良町のまちづくりについて、高木アドバイザーからは、北条のまちと近い規模での成功事例として新居町のまちづくりについて紹介していただき、質疑応答を重ねました。

2. 派遣の成果、感想、反省点など

今回の派遣により、今後に繋がる多くのアドバイスを得ることができました。具体的な成果として、皆が集まれ、地域に開かれた活動の拠点を持つことの有効性をアドバイスいただき、早速、メンバーが所有する空き家利用の申し出から、協議会の活動の拠点づくりに着手したこと、また、活動の継続性や人材の幅を広げるための組織作りについて助言をいただき、現在、NPO法人化の手続きに入ったことなど、協議会としての今後の方向性を明確に持つことができました。

そして、丁度、次のステップへの転換点にあったこの時期に、協議会がこれまで行ってきた事に対してアドバイザーの皆さんから評価いただいたことで、会の皆さんが活動に対して自信を持てたことは大きな成果でした。また、北条まちづくり協議会会長の松本正光さんからは「会の皆が、活動する上で、日頃思っていることを、熱心に議論したことは、大変意義のあることでした」と感想をいただきました。

3. 来年度に向けた予定や希望

来年度は、活動の拠点を本格的に整備し、アドバイスいただいたことを基に、もっと地域に対して、その存在や活動を伝えていくこと、そして、NPO法人格を取得（6月予定）し、更に活動の輪が広がることを協議会の目標としています。

アドバイザー事業は、指導項目の達成に努力することを約束して終了しました。北条まちづくり協議会としては、アドバイザーの皆さんに、定期的に現況を伝え、今後も交流を続けていきたいと考えています。

奈良県 / 十津川村

村づくり推進課 増谷 良一

1. 派遣テーマと1年間の概要

奈良県十津川村の代表的な観光資源は、全国で初めて「源泉かけ流し宣言」を行った良質な高温泉と、世界遺産「大峯奥駈道と熊野参詣道小辺路」の大自然の聖地である。

しかし、豊富な資源に恵まれながらも、なかなか誘客までには至っていないのが現状である。今年度初めてアドバイザー派遣をお願いし、「村の宝を活用した地域振興策」「第3セクターの運営改善策」「人材の活

用方法」等を主なテーマとして、官民協働で行っている「心身再生の郷づくり実行委員会」を中心として協議を重ねていただいた。

第1回目の派遣では、実行委員会の方々と意見交換をして、現状の施設や世界遺産等も視察していただいた。その中で、特に地元の人が見えない、旅館の「おかみさんや主人」の顔が見えない。その地域の人材リスト作成の提案を受ける。

第2回目の派遣では、人材の活用方法として、観光大使制度について具体的な展開方法(VIPカードやグッズ等)のアドバイスを受ける。この事は今年度、大使制度を行う上で非常にありがたく、その後の展開での参考となった。地域振興策としては、旅館と生産者を繋ぐ「中間組織」の必要性の指摘を受け、今後の産業振興の具体的な方法が見えてきた。

第3回目の派遣では、今までの派遣による指導を受けて、作成中の人材リストの資料を提示し、民間の方々と協議した。この資料が完成すれば是非、宿で活用したいとの前向きな意見が大半であった。中間組織の設立に向けては、第3セクターの活性化も含め、ホテル昇で朝市を開催する事で生産者の方々と意見統一を行った。その他の温泉街でも、朝市開業にむけて協議を進めた。旅館のおかみさんとの話し合いも初めて開催し、参加されたおかみさんからは大変好評で、今後定例的に会議を開催する事で意見がまとまった。



会議風景

2. 派遣の成果、感想、反省点など

3名のアドバイザーの方を同時に受入れるのは初めてで、当初は不安もあったが、回を重ねる度に3名それぞれの専門分野での適切な助言やアドバイスは、今後の方向性が明確となり、自ら動かないといけないうちに気づく者も出てきて行動を起こしは始めている。特に産業振興という点では「中間組織」の設立が不可欠で、その組織の設立に向け協議を進めているところです。日本で一番アクセスの悪い地域でのアドバイザー派遣で、アドバイザーの先生方には大変ご苦勞をおかけいたしました。

3. 来年度に向けた予定や希望

来年度に向けては、村の存続に関わる産業振興の中心となる「中間組織」の設立に向け、官民協働で全力を注ぎたいと思います。全国には私たち十津川村のように、なかなか知られていない「秘境」が沢山あると思います。このような過疎の小さな自治体は、市町村合併や、少子高齢化問題など共通の悩みを抱えております。ただ、過疎地だからこそ、残された財産「宝」が有ります。その部分に磨きをかけていただいたのが今回の地域振興アドバイザー派遣です。3名の先生方(菅原・藤原・廻アドバイザー)には本当にお世話になりました。今後とも継続的な指導を是非ともお願いしたいと切に思います。有難うございました。

島根県 / 益田市

地域振興部地域振興課 和崎 達美

1. 派遣テーマと1年間の概要

今回の派遣は、平成17年9月に地域住民有志で「二川の未来を創る会」を結成し、自助・互助・公助の視点でまとめた「二川まちづくり提言書」の具現化に向け、二川地域の宝、美都温泉を核にした、企画(人)、生産(物)、販売(経済)の仕組みづくりと地域産品のブランド化を派遣テーマとした。

第1回目の派遣は、未来の会のこれまでの取り組みや地域の状況等の説明を行い、これを受けアドバイザーの方から、提言書に対する意見や地域を視察しての感想などを含め、意見交換が行われた。その際、次回派遣時までに「二川の人間力・地域力調査」を実施しておくことの宿題をいただいた。

第2回目の派遣は、アドバイザーの指導のもと、調査結果(地域資源・人材等)を地域マップに落とす作業や、地元の達人を直撃訪問し、二川地内の暮らしと食について話しを伺うなど、3名のアドバイザーが分かれて行動された。

後半は、参加者全員に「自分にできること」「仲間



決意表明作成中

とできる・したいこと」を発表していただき、テーマ毎にまとめ、お互いに確認することができた。

第3回目の派遣は、前回のテーマ毎の中から、今後二川で取り組みそうなこと、取り組んだ方がよいことを参加者全員で投票し、事業の絞込みが行われた。

2日目は、今回の派遣事業の成果報告会と題し、地区民全員に参加を呼びかけ、これまでの取り組み・成果の発表を行うとともに、今後の活動について理解と協力をお願いする会となった。

2. 派遣の成果、感想、反省点など

派遣テーマとは少し違った視点で助言等をいただいたところであるが、全住民を対象に地域力調査の実施や地域の食材を活用した手料理での交流会など、地域にある宝（資源）を再発見できる事業であった。特に、地域力調査の実施は、二川の多くの人々が、「この地を愛しこの地に住み続けたいと思っていること、何か事を興せば協力する気持ちがあること」が把握できたことは、今後大きな力となると思う。

成果報告会のアドバイザーの講評では、「地域の有志が会を重ねてまとめた提言書は、地域全体の総意ではない。だから、提言書の内容を地域の皆さんに示して共に行動してほしいと願望を抱くことなど甚だおかしく無理なことである。皆さんはまじめすぎるので面白みがない。だから地域が良くならない」と厳しい指摘をいただくなど、一回目から辛口なコメントで会員等を奮い立たせて頂いたところであるが、改めて、限られた人数の中で事を興すことの難しさも実感し、責任感や義務感ではなく、失敗を恐れず、楽しみや高揚感で事をなすことが大切であることを学び、私たちも含め意識改革の必要性を実感させられた。

3. 来年度に向けた予定や希望

現在、「二川の未来を創る会」では、今後の会のあり方と取り組みが検討されている。今回の事業を通じて、地域住民から未来の会に意見も頂いているが、これは今までにはなかった声であり、逆に住民の地域づくりに対する関心が高まった表れかもしれない。今後、アドバイザーからの指摘を踏まえ、地域の活性化に向けての取り組みを着実に進めて行きたいと考えている。

岡山県 / 真庭市

バイオマス政策課 江崎 仁

1. 派遣テーマと1年間の概要

派遣テーマは、「環境保全型『真庭ブランド』の構築」であり、地域ブランド化のひとつの手段としてのブランド認定制度のあり方について意見交換をし、生産現場の視察を行うというかたちで進めました。

第1回目の派遣では、まず2名のアドバイザーの方に先行してお越しいたいただき、真庭ブランド認定準備会の協議に参加していただきました。その場では、真庭ブランドのコンセプトや視点というものについて議論を行いました。その後、もう1名のアドバイザーの方にお越しいたいただき、できるだけ多くの現場を視察していただいた上で、生産者との意見交換を行い、まず真庭という地域を知っていただきました。



現地視察で「いちごっ娘農園」を訪問

第2回目の派遣は、前回の派遣時にアドバイザーの方から受けた指摘を整理し、準備会で再度協議を行った上で実施しました。ここでは、コンセプトと認定要件についての最終的な確認をしたことと、認定後の真庭ブランドのあり方などについても触れることができました。

第2回目と第3回目の間には、ブランド認定制度が実施され、10品目の真庭ブランドが認定されました。第3回目の派遣では、真庭ブランドの具体的な販売促進などについて協議し、アドバイザーの方にはそれぞれの立場や豊富な経験から様々なアイデアと助言をいただきました。



「真庭ブランド」に認定された10品目

2. 派遣の成果、感想、反省点など

これまでの協議のなかでは、どうしても「モノを売る」という商業的な議論に偏る傾向がありました。も

ちろん「外貨を獲得する」といったような目標は当然あるべきですが、地域ブランドを推進していく上で「地域づくり」という視点は、必ずなければならないということを確認しました。

地域で愛されていないものは外では絶対に評価されない、という指摘を受けましたが、いいもの（ブランド）を掘り起こしてどれだけ地域のライフスタイルに戻していくか、ということが今回の最大のテーマであったように感じます。真庭市は水と緑に恵まれた素晴らしいまちです。しかし、その中には失われつつある伝統や風習、埋もれている食や技術がたくさんあります。真庭ブランドを発信するという事は、地域に向けてメッセージを送ることであったと感じています。この気づきに至るまでに、3人のアドバイザーの方に多くの言葉をいただきました。その場にいた人たちがその言葉を受け止め、真剣に考えた成果がいま始めているような気がします。

今回アドバイザーの方にいただいた言葉、私たちがやろうとすることなどを、これから多くの人に伝えていかなければなりません。目に見えるように表現することや全体をコーディネートする能力を身に付けるなど、まだまだ課題は尽きません。

3. 来年度に向けた予定や希望

派遣事業はこれで終了ですが、今後、真庭ブランドを推進していく中で、今回生まれたネットワークやアドバイザーの皆さんとの繋がりを大切に、多くの人がかかわっていくことで魅力ある真庭ブランドを築いていきたいと思っています。

山口県 / 長門市

企画総務部企画政策課 井上 義徳

1. 派遣テーマと1年間の概要

湯本温泉は、本市観光産業の中核を担う温泉地であるが、近年、宿泊客数の大幅な減少により温泉街も活気を失いつつある。また、湯本温泉の大型ホテルは、飲食店から土産物屋まで完備しており、温泉街を散策する観光客があまり見受けられないことから、ホテル完結型でなく、周辺商店街や集落を含めた魅力ある温泉地づくりについて考えるため、今回地域振興アドバイザーの派遣を受けたものである。

第1回目の派遣では、湯本温泉街の現地視察やこれまでの青年部の活動等を踏まえながら意見交換を行い、アドバイザーからは、「地域住民も楽しめるプログラムづくり」、「土産物屋めぐり」、「空き店舗対策」を行うべきとの意見が出された。また、次回までの宿題として、「事業コンセプト」、「推進組織」、「まち歩きマップ」、「空き店舗対策」等について意見をまとめることとした。



「恋伝説」の伝わる音信川での視察風景

第2回目は、前回の宿題を踏まえ、アドバイザーから示唆いただいた「地域住民がどれだけ地域を楽しめるか」というキーワードのもと、湯本温泉街をテーマに湯本地区の住民を交えてのワークショップ（以下WS）を行い、「食と交流空間の創造」、「大寧寺を中心とした門前町の形成」、「マップづくり」等が必要との結論を得た。



ワークショップ風景

第3回目は、前回WSの結果をもとに、湯本温泉の魅力である「食」や「門前町」、また、再生に必要な「環境美化」や「空き店舗対策」等を中心に、それぞれの必要度と実現可能性を検証しながら、「昭和30年頃の湯本温泉への回帰」をテーマに温泉街を散策できる空間を創造することが必要であるという結論に至った。アドバイザーからは、湯本温泉の「アイデンティティ」と「キャッチコピー」を見出した後の「コミュニケーション展開」の際には、無理なく持続可能な活動とすることが大切との意見をいただいた。

2. 派遣の成果、感想、反省点など

湯本温泉では、これまで温泉街の中央を流れる音信川に人々の意識が集中していたが、アドバイザーからは、昔ながらの風情ある建物等景観の素晴らしさを賞賛いただき、湯本温泉の真の魅力（アイデンティティ）とは何かを気づかせていただいたように思う。今後さらに湯本温泉の要素（キャッチコピー）を探し、商品化・PRといった具体的アクションを起こす取り組み（コミュ

ニケーション)が必要であることを示唆いただいた。

また、今回の派遣を通して、WS や座談会により協議を進めてきたが、湯本温泉の活性化を図る上で、温泉旅館と地域住民の意識の共有が必要であることを再認識する結果となった。

3. 来年度に向けた予定や希望

今回の派遣事業によって結論づけられた「昭和30年頃の湯本温泉への回帰」というテーマのもと、事業を推進する組織体制を整備すると同時に、環境美化やマップづくり等の無理なく継続して活動できる内容の取り組みを進めながら、大寧寺への参道を散策できる空間形成を行うことで、「ゆもと力(ブランド性)」を高め、その過程において、旅館のみならず周辺商店街および集落を含めた魅力ある温泉地再生に繋がることが期待される。

大分県 / 臼杵市

産業観光課 宮崎 聡

1. 派遣テーマと1年間の概要

臼杵市が誇る観光資源の一つに、国宝臼杵石仏があります。平成7年に国宝指定を受け、その規模・数量・質においても国内最高峰の磨崖仏と言われていますが、近年入場者数減少が続いており、平成19年度には入場者数が16万人を下回るまでに減少しました。

そこで、平成19年2月に「石仏関係者の情報共有を図りながら臼杵石仏の活性化策を模索する」との目的で「石仏情報連絡会議」を設立、臼杵石仏の今後の方向性とやるべき事業を決定した上で、特に優先度が高いと思われた「臼杵石仏および周辺の散策マップ」の作成について、アドバイザーの先生方を派遣していただくこととなりました。

ところが、第1回目の派遣の際、先生方に大分県内の各観光施設を視察していただいて出た結論は、「マップの作成だけでは石仏観光の活性化は不十分」というものでした。そこで派遣テーマを再検討すべく、各先生方から臼杵石仏の進むべき道についてのヒントをいただきました。福田先生からは、臼杵石仏地域住民の活力を活かして地域の経済基盤確立を目指すこと。安島先生からは、ハード面(石仏自体の見せ方等)とソフト面(石仏の価値についての説明手法等)の両面から検証してマイナス部分を排除していくこと。南先生からは、石仏参道の空間演出やパンフレットの作成手法において、常に変化しているお客様の嗜好をつかむことについてです。

さて、第1回目会議終了後、一部の会議参加者からは「ここからどうすればよいかわからない」「即効性のある答えはないのか」「問題が増えてしまったので

はないか」等の声が噴出しました。そこでまず、先生方の指摘をどう感じたか討論し、それから未来像をどのように修正すべきか、ゆっくり時間をかけて議論しました。そのうちに参加者の中で問題解決の意欲がだんだん高まり、解決アイデアもよりユニークになっていきました。

第2回目の派遣は、第1回目の派遣から約5カ月かかってしまいました。しかしその甲斐あってか、会議は充実したものになりました。進むべき方向性を再度確認した上で、独自のお土産開発の具体案や、お参りの手法見直しなどの実行案について、細かい部分までの話し合いをしました。また、各団体が抱えている悩みや未来像などを、先生方に相談する様子も見受けられました。

最後の第3回目の派遣では、通常の会議とは別に、地域住民を広く巻き込んで懇親会を行いました。通常の会議メンバーの中には、地域住民が3名ほど入っているのですが、より広範囲に意見交換をするために、総勢40名の規模で会議を開催しました。会議中は最初こそ意見が少なかったものの、アドバイザーの先生方がうまく誘導していただいたおかげで、かなりにぎやかな会議となりました。住民の方からは、「こんなに深田(地区の名前)のことを考えてくれてるなんて、感動したわぁ」等の言葉を多数いただきました。住民の意識も高まったようで、結果実りのある懇親会になったと思います。



地域住民を交えてのアドバイス風景

2. 派遣の成果、感想、反省点など

前述のように、回を重ねるごとにだんだんと課題が絞られてゆき、参加者の意識やテンションが高まってきました。また、先生方の巧みな誘導と的確な助言によって課題が絞られてゆき、やるべき実行案も具体的になりはじめました。時間はかかりましたが、参加者は手ごたえを感じ始めたのではないのでしょうか。私も感じています。

3. 来年度に向けた予定や希望

現在の勢いを持続しつつ、石仏を訪れたお客様がより満足していただけるように、これからも息の長い努

力をしていきたいと思っています。特に行政の立場からは、臼杵石仏地域だけではなく、石仏が存在する他の地域と連携した広域的なPRについて積極的に検討していきたいと思っています。

今後も「石仏情報連絡会議」は定期的に続けていく予定です。アドバイザーの皆様方におかれましては、これからも随時近況報告を続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

大分県 / 由布市

総合政策課 衛藤 公治

1. 派遣テーマと1年間の概要

川西校区は、観光地でもある由布院盆地の西部から大分川沿いの中山間地に広がる9つの自治区で構成されています。この校区内の4つの自治区では、すでに高齢化率が40%を超えており、荒れた農地や山林の増加、空き家の増加、過疎化の進行による集落機能の衰退が進み、住民の日常生活に支障をきたす様々な問題が徐々に顕在化してきており、現在や将来に不安を感じる住民が増加しています。

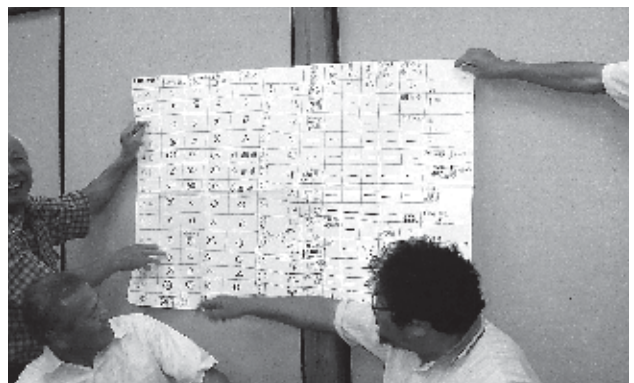
今年度、このような課題を解決するため、本市の実施する「由布コミュニティ（地域の底力再生）事業」に取り組んでいただきました。しかしながら、地域の活性化に対する方向付け、地域資源の活用方法、小規模集落に対する広域的な活性化方策等のノウハウが地域住民、事務局に不足しているため、アドバイザーの派遣を希望しました。

第1回目の派遣は、川西校区の状況を把握していただくため、地域の代表者から地域の現況等の説明をしていただき、その後、川西校区内に点在する名所・旧跡や地区内の状況を確認するため、現地調査（フィールドワーク）を実施いたしました。フィールドワーク終了後、「地域活性化の方向付け」「地域資源の活用方法」「小規模集落に対する広域的な活性化の方策」等について意見交換を行ったのですが、先生方より、「何に対してアドバイスをしてほしいのか」というポイントが整理されていないことの指摘を受け、第2回目までに整理しておくよう宿題が出されました。

第2回目では、1回目で出された宿題について、次の5つに絞り込みアドバイスを受けることといたしました。「竹」を中心とした「環境循環型農業」で地域振興は可能か。もし、可能なら留意すべき点は

何か。どのような実施体制がよいのか。地域の多くの人々が「主体者」となっていって一体感をもって取り組まねば実現できないが、どのようにして地域・個人をまとめていけばいいのか。特に、地域特性の違う複数の自治区で構成される川西校区の場合の具体策は。農業は、その性格上保守的にならざるを得ない傾向を持っています。地域の農業従事者に、新たな農業手法に主体的、積極的に取り組んでいただくためにはどのようにすればいいのか。新たな事業への取り組みには有能な「リーダー」と強力な「リーダーシップ」が必要だといわれます。どのようにして地域の中心となり牽引役となるリーダーを育てていけばいいのか。という5点についてアドバイスを受けました。

第3回目では、川西校区の一集落を対象に、徳野先生に集落点検調査を実施していただき、集落点検調査から見る地域再生の課題等についてアドバイスをいただきました。また、井原先生には、少子高齢化に伴う地域の問題と課題、そしてアクションプランについてアドバイスをいただきました。



アドバイザーによる集落点検の説明

2. 派遣の成果、感想、反省点など

アドバイスを受ける過程において、アドバイスを受けるポイントの絞り込みができていなかったため、参加者の皆さんに戸惑いを持たせてしまいました。

しかし、回を重ねるごとにアドバイザーの先生方からの助言により、小規模集落を含む地域活性化の方向付け、考え方等が徐々にわかってきました。

3. 来年度に向けた予定や希望

今後は、今回の先生方からのアドバイスを参考に、本市の実施する「由布コミュニティ（地域の底力再生）事業」の中で取り組んでまいります。

編集・発行

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-7 第二文成ビル201
財団法人 日本地域開発センター
TEL. 03 (3501) 6856 FAX. 03 (3501) 6855

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
国土交通省都市・地域整備局地方振興課
TEL. 03 (5253) 8404 FAX. 03 (5253) 1588